

訪問科学実験の運営と活動実績について

本活動は、文部省（当時）のフレンドシップ事業として1997年度からはじまりました。当初は理科教育講座所属教員の指導のもと、授業の一環として、理科に所属する学生のみ参加する限定的な活動でした。その後、教育課程の改変などにより、授業としての実施・運営が困難となったため、学生主体のサークル活動として発展的に継続され、理科教育講座以外の学生も多数参加するようになりました。2004年度からは、学校行事の学生ボランティア活動として運営されていますが、学生主体の運営を尊重して主体的に活動をしています。2005年度から2008年度までは「特色ある大学教育支援プログラム・特色G P（科学教育出前授業等による学生自立支援事業）」の一環として実施され、2009年度から2012年度は「特別教育研究・教育改革（科学・ものづくり教育推進に関する拠点形成の取り組み）」の枠組みの中で、「理科実験・ものづくりができる教員」をめざし、活動を発展的に継続しています。2013年度からは「大学間連携による教員養成の高度化支援システムの構築（HATO プロジェクト）」（国立大学改革強化推進事業）の枠組みの中で、「理科離れ克服の科学・ものづくり教育の推進プロジェクト」として活動を継続してきました。また、2017年度には、大学に対する貢献度や主体的・積極的な社会貢献活動が認められ、「AUEパートナーシップ団体（PS団体）」として認定されました。現在は、学内に設置されている「科学・ものづくり教育推進センター」が中心となり本活動を継続して実施しています。

万一の事故に対応するため、参加学生は、学生教育研究災害傷害保険<日本国際教育支援協会>、学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険<日本国際教育支援協会>、学生総合共済<全国大学生生活協同組合連合会>、学生総合共済付帯学生賠償責任保険<全国大学生生活協同組合連合会>に加入しています。

年度	小学校	中学校	地域等	参加学生（延べ）
1997	2	2	1	160
1998	5	1	3	326
1999	4	2	4	402
2000	4	1	10	442
2001	5	3	4	254
2002	12	3	6	533
2003	12	2	4	414
2004	11	1	1	555
2005	7	0	5	364
2006	16	3	5	533
2007	20	0	5	565
2008	18	2	11	619
2009	15	1	13	554
2010	20	2	11	572
2011	14	2	7	405
2012	14	1	11	437
2013	18	1	11	515
2014	15	2	15	489
2015	15	2	13	473
2016	14	3	22	400
2017	13	2	26	414
2018	16	1	14	353
2019	16	0	15	365
2020	1	0	7	346
2021	6	1	15	320
2022	9	0	37	418
2023	8	0	36	461
2024	9	0	46	473

＜訪問科学実験の目的＞

1. 将来教員となる学生の資質・指導力の向上

- ・子どもとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解する能力を高める
- ・理科について詳しい知識を身につけ、おもしろさや楽しさを子どもに伝え、効果的に教えることのできる能力の育成

2. 理科好きの子どもを育むための学校や地域への貢献

- ・学校現場や地域社会との連携活動
- ・実験の提案、実験情報・資料・教材の提供